

卒業生が
振り返る
私の人生



思った道とは違っても、
粘り強く頑張れば、
きっとその道のプロに
なれると思っている。

日本福祉大学のOBたちのその後。

今回は、東日本ハウス(株)の営業として活躍する杉本純一さん(24)に、これまでの人生の道りを振り返っていただきました。

このハウスメーカーに入社して2年目です。就職活動では10社くらいにエントリーして、そのうち5社の会社説明会に足を運びました。

「人と関わる仕事がしたい」。そう考えて仕事選びをしていました。人と会話をしながら進めていける仕事がいいな、と。福祉の道に進むか、それとも一般企業に進むか、とても迷ったのですが、最終的には今の会社に入社を決めました。



じつは、ぼくは社会福祉士の国家試験に落ちてしまったんです。自分的には「まあ仕方ないか」くらいにしか思っていなかったんですが、親も「日福大に行ったのに社会福祉士の資格が取れないとは……」と軽く言われたくらいで、後は特に何も言わなかったです。

国家資格は取れませんでした。大学で福祉を学んだことは、今の仕事にも役立っています。家に関わる仕事ですから、介護認定や要支援の話など、国からどう支援を受けられるのかをお客様に聞かれたり、親と同居する場合は介護スペースをどう確保していけばいいかなどの相談も受けたりします。「介護認定を受ける場合は……」「それなら介護スペースはこのくらいの広さに……」など、福祉を学んできた自分だからできる提案を、できるだけ詳細にお客様にしていきたいと思っています。

今は、資格に再チャレンジしようと思っているんです。「宅建」の資格です。会社には「自己啓発の時間」というものがあり、その日は7時の定時より2時間早い5時に帰ることができますから、その時間を使って資格取得にチャレンジしてみよう。会社の同僚と



「自分に力がつくまでは、何事も我慢してやり通したいと思う」。



も資格の話をする時があります。次のステップに進むための足掛かりとして、みんな資格は欲しいと思っているみたいです。



仕事ですから、つらいこともあります。自分がまだ何も知らず、無知であることがとてもつらいです。家売る仕事は、細かい準備をいくつも積み重ねていかなければ、お客様の信頼を失ってしまうことにつながります。でも、自分に知識がないばかりにミスをしてしまうこともあったりして、そういう時は本当につらい。だから、資格取得の勉強を通して、少しでも自分を成長させていければと思っているんです。

父とは、酒を飲みながら仕事の話ををする時もあります。父は、ずっと同じ会社で働き続けてきた人。嫌なことやつらいこともきっとあっただろうに、そこから逃げずに働き続けてきた父を見て育ちましたから、ほくも職は転々としたくないと思っています。たとえつらくても、自分に力がつくまでは、何事も我慢してやり通さなければならぬ。こう思えるようになったのも父のおかげだと思っています。

会社には、5件の家を売ったら両親を呼んで表彰していただける制度があるんです。今は3件を売ることができましたから、残りあと2件です。早く表彰に両親を呼べるように。これが

今のぼくの目標です。

福祉とは違う世界に進んだ自分ですが、大学で学んだことは無駄にはならないし、違う道で今、将来に向けての目標を築きつつあります。道はひとつじゃない。思う道とは違う道に進んだとしても、望む資格が取れなかったとしても、進んだ道で粘り強く頑張りを続ければ、きっとその道のプロになれる。そう思っています。

【杉本さんの仕事】ハウスメーカーの営業として活躍。モデルルームに足を運んでくれたお客様に対して、住宅に関するさまざまな説明・提案を行い、お客様が望むライフスタイルを実現できる家づくりに深く関わっていく。宅建資格など土地・建築の知識はもちろん、生活に関する多くの知識が求められる仕事。ひとつでも多くの知識を習得しようと、杉本さんは日々奮闘中だ。